

監査報告書

令和5年5月23日

社会福祉法人 あかりの家

理事長 西尾 淳 様

監事 中野 直子



監事 山本 弘幸



私たち監事は、令和4年4月1日から令和5年3月31日までの令和4年度の理事の職務の執行について監査を行いました。その方法及び結果について、次の通り報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び職員等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び職員等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査しました。以上の方法により、当該会計年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該会計年度に係る計算関係書類（計算書類及びその附属明細書）及び財産目録について検討しました。

2 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

【事業全般について】

- ① 定款第1条に規定される事業については、事業計画に沿って実施され、また結果についても適切に事業報告がされている。
- ② 理事の職務の執行に関する不正の行為又は、法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。

【各事業について】

- ③ 障害者支援施設あかりの家の利用者支援については、高度な専門性に基づく幅広い職員研修により職員の意識向上と利用者個々に対応した支援の充実が推察される。今後とも利用者の高齢化に伴う健康管理上の問題や引き続き感染症対策などにも考慮しながら利用者の立場に立った支援に努めていただきたい。
- ④ 児童発達支援や放課後等デイについては、事業所が2カ所となり、サービスの質の確保のために運営面も工夫しつつ取り組まれ、支援を必要とする多くの児童を受入れることが出来ている。保育所訪問事業においては、ひょうご発達障害者支援センタークローバーと連携の取りやすい環境にあることから、地域の療育の質を高める役割を担う事業所として事業を進められたい。
- ⑤ ワークホーム高砂については、働き方の見直しや作業環境の改善に積極的に取り組み、懸案事項であった週5日稼働に移行するなど作業効率の向上に努めている。将来を見据えたゴトウアズプランニングとの調整や保護者会との連携に努めるとともに、引き続き利用者の生活全般に関わる支援に努

めていただきたい。納豆工房なつとこちゃんにおいては、昨年度から単独事業所としてスタートを切り、今後を見据えた計画のもと着実に事業展開をされてはいるが、利用者を増やすよう努めていただきたい。工賃においては、いずれの事業所も高い水準を維持しておりサービス提供の面からも高く評価できる。

- ⑥ ひょうご発達障害者支援センタークローバーは、高校生年代やひきこもりなど支援の対象が多様化する中で、支援体制の役割の検討を行うなど支援の充実に努めている。また、ランチ的機能においては、従来の取組みに加えて新たな家族支援の取組みを始めるなど、個別事例にもきめ細やかに対応をされている。いずれも県の委託事業として連携機関等からの信頼度が高いことが推察される。
- ⑦ 地域支援センターあいあむについては、東播磨圏域における地域支援の拠点としての役割も大きく、業務も多忙ではあるが、職員の健康管理に留意しながら、今後も専門性を活かして地域の期待に応えるよう取り組んでいただきたい。基幹相談支援センターは、4年目に入り相談員も増員となり、地域の相談窓口としてのニーズに応えるべく積極的な取組みをされている。
- ⑧ あかりの家全体としては、それぞれの事業において年月をかけて改善改革がなされてきており、障害福祉サービス等の質の確保・向上に努められ、一定の成果を出しているものと思われる。今後、施設の建替えも見据えた法人運営においては、各事業における収支の状況を各々の長等が把握し、特に事業活動がマイナス決算となっている事業については、その原因を調査し黒字転換できるよう努めていただきたい。

(2) 計算関係書類及び財産目録の監査結果

- ① 目的外の預金残高が199百万円となっており、前期より4百万円の増加にとどまっています。修繕積立資産と施設整備等積立資産をあわせても292百万円となり、施設建替えを考えた時に準備不足となる可能性があります。早急に建替え計画を作成し、それにあわせて資金計画を作成する必要があります。
- ② その他の計算財務諸表を監査した結果、特に問題はありませんでした。

以上